

# 第22回 定時株主総会 招集ご通知

ペットゴー株式会社

証券コード：7140

## 〔ご案内〕

ご送付している書面は、法令及び当社定款の規定に基づき電子提供措置事項から一部項目を除いておりますが、目次、項番、参照ページなどは電子提供措置事項と同一としており、連番となっていないことをご了承ください。

## 開催 日時

2026年6月26日（金曜日）  
午後3時  
（受付開始：午後2時30分）

## 開催 場所

東京都中野区本町一丁目32番2号  
ハーモニースクエア3階  
「ハーモニーホール」

※末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。

## 決議 事項

議 案 取締役（監査等委員である  
取締役を除く。）3名選任  
の件

証券コード 7140  
2026年6月10日  
(電子提供措置の開始日2026年6月4日)

株主各位

東京都中野区本町一丁目32番2号  
ペ ッ ト ゴ ー 株 式 会 社  
代表取締役社長 黒 澤 弘

## 第22回定時株主総会招集ご通知

拝啓、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第22回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイト  
に電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト

(<https://corp.petgo.jp/ir/library/shareholdres-meeting/>)

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東京証券取引所ウェブサイト

(<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>)

上記の東京証券取引所ウェブサイトにアクセスして、当社名又は証券コードを入力・検索し、  
「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択の上、ご覧ください。

なお、当日ご出席願えない場合は、インターネット又は書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討の上、2026年6月25日(木曜日)午後6時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

[インターネットによる議決権行使の場合]

当社指定の議決権行使ウェブサイトアクセスしていただき、同封の議決権行使書用紙に表示された「議決権行使コード」及び「パスワード」をご利用の上、画面の案内にしたがって、議案に対する賛否をご入力ください。インターネットによる議決権行使に際しましては、3ページの「議決権行使についてのご案内」をご確認くださいようお願い申し上げます。

[郵送による議決権行使の場合]

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示の上、上記の行使期限までに到着するようご返送ください。

敬 具

記

1. 日 時 2026年6月26日（金曜日）午後3時（受付開始 午後2時30分）
2. 場 所 東京都中野区本町一丁目32番2号 ハーモニースクエア3階  
「ハーモニーホール」
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第22期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第22期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）計算書類の内容報告の件決議事項  
議 案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名選任の件
4. その他招集にあたっての決定事項
  1. 議決権行使書において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。
  2. インターネットと書面により重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使を有効な行使として取り扱わせていただきます。なお、インターネットによる方法で複数回議決権行使をされた場合は、最後の行使を有効な行使として取り扱わせていただきます。

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、総会当日に電子提供措置事項にアクセスするための資料として、この「第22回定時株主総会招集ご通知」をご持参くださいますようお願い申し上げます。

◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。

## 議決権行使についてのご案内

議決権の行使方法は、以下の方法がございます。株主総会参考書類をご参照の上、可能な限り、インターネット又はご郵送によって、事前に議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。



### インターネット

#### ■議決権行使コード・パスワード入力による方法

議決権行使ウェブサイトへアクセスいただき、同封の議決権行使書用紙右片の裏面に記載された議決権行使コード及びパスワードをご利用いただき、画面の案内に従って議案の賛否をご入力ください。なお、セキュリティ確保のため、初回ログインの際にパスワードを変更していただく必要があります。

#### ■スマート行使（QRコード\*の読み取り）による方法

同封の議決権行使書用紙右片に記載のQRコードをスマートフォン等にて読み取り、画面の案内に従って議案の賛否をご入力ください。なお、スマート行使による議決権行使は1回に限らせていただきます。議決権行使後に賛否を修正される場合は、左記に記載の「議決権行使コード・パスワード入力による方法」により再度ご行使いただく必要があります。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

#### 議決権行使ウェブサイト

<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>



### 行使期限

2026年6月25日（木曜日）午後6時までに入力

インターネットによる  
議決権行使に関する  
お問い合わせ先

みずほ信託銀行 証券代行部 インターネットヘルプダイヤル  
電 話 0120-768-524（フリーダイヤル）  
受付時間 9:00～21:00（年末年始を除く）



### ご郵送

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、ご返送ください。

### 行使期限

2026年6月25日（木曜日）午後6時までにと到着



### 株主総会へのご出席

当日ご出席される場合は、同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。また、本招集ご通知をご持参くださいますようお願い申し上げます。

### 開催日時

2026年6月26日（金曜日）午後3時

## 株主総会参考書類

### 議案及び参考事項

議 案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名選任の件

現在の取締役（監査等委員である取締役を除く。）全員（3名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となりますので、取締役3名の選任をお願いするものであります。なお、本議案について監査等委員会からは、各候補者について適任であるとの意見をいただいております。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	ふりがな 氏名 生年月日	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
1	くろさわ ひろし 黒澤 弘 (1971年6月25日生)	1994年4月 住友商事株式会社入社 2000年4月 McKinsey&Company入社 2004年11月 ペットゴー株式会社（当社）を設立 当社代表取締役社長（CEO）（現任） 2017年5月 ペットゴープロダクツ株式会社代表取締役 社長（現任） 2025年4月 株式会社FLAFFY取締役（現任） 2026年4月 株式会社DogHuggy取締役（現任） （重要な兼職の状況） ペットゴープロダクツ株式会社代表取締役社長 株式会社FLAFFY取締役 株式会社DogHuggy取締役	291,689株
(選任理由) 黒澤弘氏は、2004年11月に当社を設立し、創業時より代表取締役社長としてその手腕を発揮し、企業経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有していることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。			

候補者 番号	ふりがな 氏名 生年月日	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
2	こいで ふみ ひこ 小出文彦 (1979年1月10日生)	2001年4月 株式会社アルファシステムズ入社 2005年11月 楽天株式会社（現楽天グループ株式会社） 入社 2006年8月 当社入社 2008年6月 当社取締役（CTO） 2023年6月 当社取締役副社長（CTO）（現任） 2026年4月 株式会社DogHuggy取締役（現任） （重要な兼職の状況） 株式会社DogHuggy取締役	68,901株
（選任理由） 小出文彦氏は、当社入社後、2008年6月に取締役に就任して以降、CTO及び副社長としての豊富な経験と実績を有しており、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上への貢献が期待できるため、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。			

候補者 番号	氏名 生年月日	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
3	佐藤 建史 (1987年2月6日生)	2009年4月 新日本監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）入所 2015年8月 ジャパン・ビジネス・アシュランス株式会社入社 2017年4月 トライオン株式会社（現トライズ株式会社）入社 2018年11月 当社入社 2018年12月 当社経営企画部長 2019年4月 当社執行役員 2023年6月 当社取締役経営企画部長（CFO）（現任）	2,310株
（選任理由） 佐藤建史氏は、当社入社後、執行役員を経て、2023年6月取締役に就任しました。同氏は、公認会計士としての勤務経験があり、経理及び財務に関する専門的な知識・経験を活かし、取締役会のさらなる機能強化及び当社の今後の成長・発展に対する貢献が期待できることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。			

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 当社は、取締役全員を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社と締結しており、被保険者が負担することとなる職務の執行に関する責任及び当該責任の追及に係る請求による損害を当該保険契約により補填することとしております。なお、各候補者が原案どおり選任された場合は、当該保険契約の被保険者となり、任期中中に当該保険契約について同内容での更新を予定しております。なお、保険料は全額当社が負担しております。
3. 所有する当社の株式数欄に記載の株式数には、ペットゴー役員持株会における各自の持分を含めておりません。

以 上

# 事業報告

2025年4月1日から  
2026年3月31日まで

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経済環境は、物価上昇の影響を受けつつも、個人消費は緩やかに増加しております。また、当社グループが取り扱うペットフードやペット用品は、犬猫の日常生活に必要な消費財であります。

当社グループが属するペット業界におきましては、犬の飼育頭数が減少傾向、猫の飼育頭数は微増傾向であることに加えて、原材料価格の高騰や急激な円安に伴う価格改定が頻繁に行われており、物量の大幅な拡大は見られておりません。一方で、健康志向の高まりによって高付加価値商品に対する飼い主の需要が増加しており、ペット市場の中でもヘルスケアの分野は着実に拡大しております。

また、飼育頭数が減少する中でも、医療技術の進歩や健康志向の高まりなどペットに対する意識が変化しており、ペットの平均寿命が長くなると同時に、1頭当たりのペット関連年間支出額も増加傾向となっており、「ペット関連支出の増加」及び「犬猫の平均寿命の伸長」により、ペットヘルスケア市場は今後も堅調に推移していくことが予想されます。

このような状況の中、当社グループは「ハッピーペットライフ・ハッピーワールド～ペットライフを幸せに・世の中を幸せに」という当社のスローガンを実現すべく事業に取り組んで参りました。

当社グループは、「DTCシフト」を中期成長戦略として掲げており、ナショナルブランドを主体とした事業構造からDTCブランドを主体とした事業構造にシフトしていくことを目指しております。また、新規領域への取り組みの一環として、2025年4月に株式会社FLAFFY、2025年12月に株式会社DogHuggyの株式を取得しました。

当連結会計年度については、食事療法食に関するDTCブランド製品の上市やオフライン店舗へのDTCブランドの展開を拡大し、加えてDTCブランドの成長に向けた広告販促投資等の施策を実施しました。

その結果、DTCブランド製品の売上高2,492,797千円（前連結会計年度比27.8%増）となり、ブランド売上高合計に占めるDTCブランドの売上高比率は33.7%まで拡大しております（前連結会計年度は20.9%）。一方、ナショナルブランド商品売上高は、一部ナショナルブランド商品の商流変更による影響により減少しました。

これらの結果、売上高は7,420,426千円（前連結会計年度比17.8%減）、営業損失は204,110千円（前連結会計年度は営業利益228,482千円）、経常損失は227,303千円（前連結会計年度は経常利益207,285千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は269,893千円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純利益128,341千円）となりました。

当連結会計年度に、株式会社FLAFFYの株式を取得し連結子会社としており、新たに「ペットメディア事業」と記載しております。ペットゴー株式会社及びペットゴープロダクツ株式会社のペットヘルスケア事業につきましては、「ペットコマース事業」と記載しております。また、株式会社DogHuggyについては報告セグメントに含めておりません。

セグメント毎の業績は次のとおりであります。

#### ① ペットコマース事業

当連結会計年度におけるペットコマース事業は、新規製品の上市、DTCブランドのオフライン展開の拡大及び広告販促投資等の施策を実施した結果、売上高は7,126,572千円、セグメント利益(営業利益)は99,466千円となりました。

#### ② ペットメディア事業

当連結会計年度におけるペットメディア事業の売上高は291,491千円、セグメント利益(営業利益)は57,498千円となりました。

#### (2) 設備投資の状況

当連結会計年度に実施しました設備投資の総額は55,835千円となり、主に物流センター移転に伴う附属設備工事及び移転に伴う備品の購入となります。

#### (3) 資金調達の状況

当社は運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関4行と当座貸越契約を締結しております。当連結会計年度末における当座貸越契約に伴う借入実行残高は824,998千円となります。

#### (4) 対処すべき課題

##### ① DTCブランド製品の開発強化

当社グループが販売する犬猫の食事療法食や動物用医薬品等のペットヘルスケア商品の多くは、海外企業によるナショナルブランドが大きな市場シェアを有しており、当社グループの商品売上においても高い依存度となっております。これらの海外企業の経営方針の変更や原材料高騰等により、商品調達価格の値上げ、商品の廃盤欠品、当該ナショナルブランドのブランド力の毀損等の事態の発生により、ペットオーナーの購入価格上昇の可能性や継続的な商品の供給が困難になる可能性があり、ペットライフのQOL向上に大きな支障を与える可能性があります。

そのため、これらの海外ナショナルブランド商品の依存度を下げ、DTCブランド製品の売上構成比を向上していくことがペットオーナーに対する安定的な商品供給と当社グループの収益性を高めていく上で重要な課題であると認識しております。

当社グループは今後、これら海外企業のナショナルブランドに対する競争力向上を図るため、高品質で付加価値の高い商品の開発、競争力ある価格の実現及び品揃えの拡充による商品ポートフォリオの確立によって、ペットオーナーに支持されるDTCブランドの構築を行って参ります。

##### ② 自社ECの認知度向上

当社グループがペットヘルスケア商品を販売する自社ECは、ペットの日常生活に必要な消費財を販売するチャネルであるため、ペットオーナーにおける認知度が当社グループの業績に与える影響は大きく、今後の継続的な成長のためには、多くのペットオーナーから支持されるブランド価値を構築していくことが重要な課題であると認識しております。ペット市場は今後も拡大し、競争も激化することが予想されます。今後の継続的な事業拡大及び競合企業との差別化を図るためには、ペットオーナーに対する自社ECのブランド確立及び認知度の向上が必要不可欠であると考えております。

当社グループは今後も引き続き、ネット広告等を利用した自社ECの広告宣伝活動を通じ、ペットオーナーの認知度が高いサイトを目指して参ります。

### ③ DXプラットフォームの強化

当社グループの事業は、Eコマースでの展開を中心としており、事業運営に係るDXプラットフォームの重要性が極めて高いことから、当該プラットフォームを安定して稼働させることが重要な課題であると認識しております。このため、安定した事業運営を行うにあたっては、新たな機能やサービスの導入等の継続的なシステム開発、アクセス数の増加等を考慮したサーバー管理や負荷分散等の対応及びセキュリティの一層の強化等の安定的なシステム運用が求められております。当社グループでは今後、システムプラットフォーム開発及び安定運用のための人員確保、突発的なアクセス増加にも耐えられるようなサーバー設備の強化や社内エンジニアの教育・研修の実施等に努めて参ります。

### ④ 物流機能の強化

当社グループの事業であるペットヘルスケア商品販売のEコマースにおいては、今後も継続的な成長が見込めることから、その成長の実現にあたっては、注文件数の増大に対応した物流機能の強化が重要な課題であると認識しております。受注件数の増加に対応するため、当社グループが運営する自社物流センターでは、システムによる入出荷、在庫管理を行っております。しかしながら、突発的な受注増や複雑化する物流業務に対して今後も安定的な運用を維持していくためには、さらなる出荷能力の向上及び業務の効率化が不可欠となっております。そのため、当社グループでは、自社で開発したクラウド型の倉庫管理システムにより入出荷プロセスの最適化に努めること及び外部の物流業者に業務委託を行うことで、出荷能力の拡大及び業務の効率化に取り組んで参ります。

### ⑤ 人材の育成及び確保

今後の事業拡大及び収益基盤の確立のためには、当社グループ従業員の継続的な能力育成及び成長機会の提供と優秀な人材の確保が重要な課題であると認識しております。そのため、採用面においては、中途採用を中心に優秀な人材の確保に努めて参ります。また、人的基盤を強化するために、研修受講等による採用担当者のスキル向上など採用体制の強化、教育・育成・指導の実施、社員の職位・職務に応じた適切な研修制度の確立及び人事評価制度の高度化等を積極的に推進し、当社グループ従業員の教育・育成を進め、働き甲斐のある職場環境の整備を行って参ります。

⑥ コーポレート・ガバナンス機能の強化

当社グループは、成長段階にあり、業務運用の効率化やリスク管理のための内部管理体制のさらなる強化が重要な課題であると認識しております。このため、バックオフィス業務の整備を推進し、経営の公正性・透明性を確保するための内部管理体制強化に取り組んで参ります。具体的には、コンプライアンスマニュアルの制定等コンプライアンスを徹底する体制の強化に加え、基幹業務システムの有効活用による業務の効率化、事業部門サイドと管理部門サイドのコミュニケーションの徹底、継続的な内部監査の実施による内部管理体制の強化、監査等委員監査の実施によるコーポレート・ガバナンス機能の充実、定期的なコーポレート・ガバナンスに関する社内教育の実施などを引き続き行って参ります。

(5) 財産及び損益の状況の推移

① 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第19期 (2023年3月期)	第20期 (2024年3月期)	第21期 (2025年3月期)	第22期 (2026年3月期)
売上高 (千円)	10,025,636	9,905,686	9,032,575	7,420,426
経常利益又は経常損失(△) (千円)	230,470	241,053	207,285	△227,303
親会社株主に帰属する当期 純利益又は当期純損失(△) (千円)	153,301	172,326	128,341	△269,893
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	85.78	93.13	68.86	△143.63
総資産 (千円)	3,075,734	3,299,529	3,310,616	3,163,309
純資産 (千円)	935,394	1,123,558	1,226,150	1,038,916
1株当たり純資産 (円)	507.75	604.81	671.86	536.08

② 当社の財産及び損益の状況

区 分	第19期 (2023年3月期)	第20期 (2024年3月期)	第21期 (2025年3月期)	第22期 (2026年3月期)
売上高 (千円)	10,000,675	9,536,505	8,790,119	6,991,210
経常利益又は経常損失(△) (千円)	225,105	190,096	239,931	△287,523
当期純利益 又は当期純損失(△) (千円)	148,698	140,006	161,057	△279,813
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	83.20	75.66	86.42	△148.91
総資産 (千円)	3,017,959	3,177,851	3,253,550	3,004,631
純資産 (千円)	895,239	1,051,082	1,186,389	961,053
1株当たり純資産 (円)	485.96	565.79	650.07	509.73

(6) 重要な子会社の状況

会社名	資本金	出資比率	主要な事業内容
ペットゴープロダクツ株式会社	1,000千円	100.0%	ペットコマース事業
株式会社FLAFFY	1,110千円	80.0%	ペットメディア事業
株式会社DogHuggy	77,497千円	100.0%	その他事業

(7) 主要な事業内容（2026年3月31日現在）

事業区分	主要な事業内容
ペットコマース事業	自社EC及び他社EC等を通じて消費者向けにペットヘルスケア商品の販売
ペットメディア事業	SNSやペットイベントにて、ペット用品やペットサービス等の紹介

(8) 主要な営業所（2026年3月31日現在）

会社名	名称	所在地
ペットゴー株式会社	本社 物流センター	東京都中野区 神奈川県厚木市
株式会社FLAFFY	本社	東京都中野区
株式会社DogHuggy	本社	東京都渋谷区

(9) 使用人の状況 (2026年3月31日現在)

① 企業集団の従業員の状況

従業員数	前期末比増減
56 (5) 名	8名増加

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用人員（パートタイマーを含み、派遣社員等を除く）は、年間平均雇用者数を（ ）外数で記載しています。

② 当社の従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
51 (5) 名	3名増加	45歳1ヶ月	7年9ヶ月

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用人員（パートタイマーを含み、派遣社員等を除く）は、年間平均雇用者数を（ ）外数で記載しています。

(10) 主要な借入先の状況 (2026年3月31日現在)

借入先	借入金残高
株式会社みずほ銀行	594,982千円
株式会社三井住友銀行	250,008千円
株式会社横浜銀行	200,000千円
株式会社三菱UFJ銀行	60,000千円
株式会社日本政策金融公庫	11,529千円

(注) 当座貸越契約による調達額の残高を含んでおります。

## 2. 株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 4,784,800株  
(2) 発行済株式の総数 1,889,200株(自己株式3,783株を含む)  
(3) 株主数 2,697名  
(4) 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
黒澤 弘	291,689株	15.5%
青柳 和洋	164,000株	8.7%
中谷 将史	97,200株	5.2%
小出 文彦	68,901株	3.7%
株式会社ソウ・ツー	60,000株	3.2%
廣田 智沙	49,900株	2.6%
マネックス証券株式会社	47,100株	2.5%
株式会社コーポレート・アドバイザーズ	43,200株	2.3%
橋爪 小太郎	40,500株	2.1%
住友商事株式会社	40,000株	2.1%

(注) 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。

### (5) 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況

当社は、業務執行取締役を対象として、株主価値との連動性を高め長期的な業績向上へのインセンティブを付与する譲渡制限付株式報酬制度を導入しております。

当事業年度において、業務執行取締役3名に譲渡制限付株式5,500株を職務執行の対価として付与しております。

### 3. 新株予約権等に関する事項

(1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

(2026年3月31日現在)

	第13回新株予約権		第14回新株予約権	第15回新株予約権
発行決議日	2018年3月29日		2018年6月18日	2019年7月16日
区分	取締役	監査等委員	取締役	取締役
保有者数	1名	3名	1名	1名
新株予約権の数	260個	180個	360個	75個
新株予約権の目的となる株式の数	52,000株	36,000株	72,000株	15,000株
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式		普通株式	普通株式
新株予約権の1個あたりの発行価額	無償		無償	無償
新株予約権の1株あたりの行使価額	900円		900円	900円
新株予約権の行使期間	2020年3月30日から 2028年3月29日まで		2020年6月19日から 2028年6月18日まで	2021年7月17日から 2029年7月16日まで
新株予約権の主な行使条件	(注) 1		(注) 1	(注) 1

	第16回新株予約権	第17回新株予約権
発行決議日	2021年3月16日	2021年3月16日
区分	取締役	取締役
保有者数	1名	1名
新株予約権の数	18個	20個
新株予約権の目的となる株式の数	3,600株	4,000株
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の1個あたりの発行価額	無償	無償
新株予約権の1株あたりの行使価額	900円	900円
新株予約権の行使期間	2023年3月17日から 2031年3月16日まで	2023年3月17日から 2031年3月16日まで
新株予約権の主な行使条件	(注) 1	(注) 1

(注) 1. 新株予約権の行使条件は以下のとおりであります。

- ① 新株予約権の割当時に当社の取締役、監査役又は従業員であった者は、権利行使時においても当社又は当社の子会社の取締役、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、諸般の事情を考慮の上、当社取締役会が特例として承認した場合を除く。
  - ② 新株予約権者の相続人による本新株予約権の権利行使は認めない。
  - ③ 新株予約権者は、新株予約権が権利行使可能となった場合であっても、当社がその普通株式を国内又は国外の証券取引所に上場するまでは新株予約権を行使することができない。
  - ④ その他の新株予約権の行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約書に定めるところによる。
2. 2021年12月4日付けで、普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っており、目的となる株式の数及び行使価額は調整されております。

## (2) その他新株予約権に関する重要事項

該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役の氏名等

地位	氏名	重要な兼職の状況
代表取締役社長 (CEO)	黒澤 弘	ペットゴープロダクツ株式会社 代表取締役社長 株式会社FLAFFY 取締役 株式会社DogHuggy 取締役
取締役副社長 (CTO)	小出 文彦	株式会社DogHuggy 取締役
取締役経営企画部長 (CFO)	佐藤 建史	—
取締役 (常勤監査等委員)	百田 功	株式会社FLAFFY 監査役 株式会社DogHuggy 監査役
取締役 (監査等委員)	藤池 智則	堀総合法律事務所 パートナー 株式会社エディア 取締役監査等委員
取締役 (監査等委員)	伊藤 章子 (戸籍上の氏名： 浜田 章子)	伊藤章子公認会計士・税理士事務所 代表 ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 監査役 合同会社アコット代表社員 株式会社RevComm 監査役 新電元工業株式会社 監査役 プリモグローバルホールディングス株式会社 取締役監査等委員 公益財団法人日本バスケットボール協会監事

- (注) 1. 取締役 (監査等委員) 百田功氏、取締役 (監査等委員) 藤池智則氏、取締役 (監査等委員) 伊藤章子氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 百田功氏は、長年に渡る総合商社での勤務経験を通じて培った経験・見識からの視点に基づき、当社の業務全般を含めた経営の監督の強化を図ることができるものと判断し、社外取締役 (監査等委員) として選任しており、監査等委員の監査・監督機能を強化し、取締役 (監査等委員を除く) からの情報収集及び重要な社内会議における情報共有並びに内部監査担当者と監査等委員会との十分な連携を可能とするため、常勤の監査等委員として選定しております。
3. 取締役 (監査等委員) 藤池智則氏は弁護士の資格を有しており、企業法務に関する相当程度の知見を有しており、企業法務とコンプライアンスの観点から監査等委員監査の強化を図ることができるものと判断し、社外取締役 (監査等委員) として選任しております。
4. 取締役 (監査等委員) 伊藤章子氏は公認会計士・税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、財務及び会計の専門的な見地から監査等委員監査の強化を図ることができるものと判断し、社外取締役 (監査等委員) として選任しております。
5. 取締役 (監査等委員) 百田功氏、取締役 (監査等委員) 藤池智則氏、取締役 (監査等委員) 伊藤章子氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

6. 2026年3月31日現在の執行役員は、次のとおりであります。

氏名	役職名
大久保 靖	執行役員管理部長
牛 田 洋 子	執行役員SCM部長
細 谷 千恵美	執行役員

## (2) 責任限定契約の概要

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）との間に、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款で定めております。当該定款に基づき、百田功氏、藤池智則氏及び伊藤章子氏と責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令で定める最低責任限度額であります。

## (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社の取締役（監査等委員含む）、執行役員及び管理職従業員であり、被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により保険期間中に被保険者に対して提起された損害賠償請求にかかる訴訟費用及び損害賠償金等が填補されることとなります。

ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、当該被保険者が法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害の場合には填補の対象とならないなど、一定の免責事由があります。

## (4) 取締役の報酬等

### ① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方針の決定に関する方針を定めております。当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとなる報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。具体的には、業務執行取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬及び変動報酬としての株式報酬により構成し、監督機能を担う社外取締役については、その職務に鑑み、基本報酬のみによって構成することとしております。なお、業績連動報酬は採用しておりません。

その決定方法は、基本報酬は月例の固定報酬とし役位、職責及び在任年数に応じて、他社水準及び当社の業績等を考慮しながら総合的に勘案して決定するものとしております。株式報酬は譲渡制限付株式とし、役位、職責及び当社の業績を考慮しながら、取締役ごとに付与する株式数を定め、その他の条件を含めて取締役会の承認を得て毎年一定の時期に付与できるものとしております。なお、株式報酬の支給対象は業務執行取締役となります。業務執行取締役の基本報酬及び株式報酬の構成割合については、各役員役割や職責等に応じて決定し、代表取締役社長の固定報酬の構成割合が最小となるように決定します。

② 取締役の個人別の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社の取締役（監査等委員を除く）の基本報酬の額につきましては、2023年6月29日の第19回定時株主総会において、年額120百万円以内（決議時の員数は3名）、株式報酬は2023年6月29日の第19回定時株主総会において、基本報酬とは別枠で年額20百万円以内、年9,200株以内（決議時の員数は3名）、監査等委員である取締役の報酬等の額は、2019年6月27日の第15回定時株主総会において年額30百万円以内（決議時の員数は3名、うち社外取締役3名）とすることについてそれぞれ承認をいただいております。

③ 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

当社の各取締役（監査等委員を除く）の基本報酬と株式報酬の額は、取締役会の委任に基づき代表取締役社長の黒澤弘が決定しますが、当該権限が適切に行使されるように、原案を含む決定方針を取締役会に諮問し答申を得て、代表取締役社長はその答申を尊重して決定をしなければならないものとされており。各取締役（監査等委員を除く）の基本報酬と株式報酬の額の決定を行う権限を委任しているのは、当社全体の業績や事業動向等を詳細に把握している代表取締役社長が適任であると判断したためであります。

当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が、取締役会で審議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

また、当社の監査等委員の個人別の報酬の算定方法は、常勤・非常勤の別及び担当分野等をもとに監査等委員の協議にて決定しております。

#### ④ 取締役の報酬等の額

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる役員 の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	非金銭報酬	
取締役 (監査等委員で あるものを除く。)	85,379	80,892	—	4,487	3
取締役 (監査等委員) (うち社外取締役)	14,706 (14,706)	14,706 (14,706)	—	—	3 (3)

※非金銭報酬は、株式報酬の当事業年度における費用計上額を記載しております。

#### (5) 社外役員に関する事項

##### ① 重要な兼職先である法人等と当社の関係

取締役 (監査等委員) 藤池智則氏は、堀総合法律事務所のパートナー、株式会社エディア取締役監査等委員であります。当社と兼職先との間に特別の関係及び取引はありません。

取締役 (監査等委員) 伊藤章子氏は、伊藤章子公認会計士・税理士事務所代表、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社監査役、合同会社アコット代表社員、株式会社RevComm監査役、新電元工業株式会社監査役、プリモグローバルホールディングス株式会社取締役監査等委員、公益財団法人日本バスケットボール協会監事であります。当社と兼職先との間に特別の関係及び取引はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	出席状況、発言状況及び 社外取締役にて期待される役割に関して行った職務の概要
取締役 (常勤監査等委員)	百田 功	百田功氏は、社外取締役に就任以降、その経歴を通じて培った豊富な経験と幅広い見識に基づき、当社の経営に対する実効性の高い監督等に十分な役割・責務を果たしております。 当事業年度に開催された取締役会19回中19回、監査等委員会13回中13回すべてに出席しました。常勤監査等委員として、会計監査人及び内部監査担当者と連携の上、監査業務を主導しました。
取締役 (監査等委員)	藤池 智 則	藤池智則氏は、社外取締役に就任以降、その経歴を通じて培った豊富な経験と幅広い見識に基づき、当社の経営に対する実効性の高い監督等に十分な役割・責務を果たしております。 当事業年度に開催された取締役会19回中19回、監査等委員会13回中13回すべてに出席しました。主に弁護士としての専門的見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を積極的に行いました。
取締役 (監査等委員)	伊藤 章 子	伊藤章子氏は、社外取締役に就任以降、その経歴を通じて培った豊富な経験と幅広い見識に基づき、当社の経営に対する実効性の高い監督等に十分な役割・責務を果たしております。 当事業年度に開催された取締役会19回中19回、監査等委員会13回中13回すべてに出席しました。主に公認会計士・税理士としての専門的見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を積極的に行いました。

## 5. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額 27,200千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、取締役会から提案された会計監査人に対する報酬に対して、当社の規模・特性、監査日数等を勘案した結果、会計監査人の報酬等の額について同意しております。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に障害ある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### (5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

## 6. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

### (1) 業務の適正を確保するための体制の決定内容の概要

- ① 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - (i) 当社グループでは、「ハッピーペットライフ・ハッピーワールド～ペットライフを幸せに・世の中を幸せに」をスローガンとして掲げ、「ペットのQOL向上」というビジョンを達成するためにテクノロジーを駆使してペットの健康寿命を最大化していくことをミッションとしております。このような明確な経営理念、スローガン及びミッションの下、法令、定款、社会規範等の遵守を経営の基本とし、取締役及び使用人はこれらに従って職務を遂行します。
  - (ii) 意思決定及び業務執行について関係諸規程を定め、業務分掌及び職務権限を明確にするとともに、相互に必要な牽制を行う体制を構築し、適正かつ効率的な業務運営を実現します。
  - (iii) 監査等委員会は、取締役の職務の執行について、法令、定款及び監査等委員会規程に基づき、独立した立場から監査します。
  - (iv) 内部監査部門として、業務執行部門から独立した代表取締役社長直属の内部監査担当者を設置し、代表取締役社長の指示に基づき、定期的に各部門の業務の執行、コンプライアンスの状況等を監査します。その結果は、代表取締役社長及び監査等委員会に報告され、内部統制システムの継続的な見直しに活用されます。なお、内部監査部門は当社全体の監査を実施します。
  - (v) 取締役及び使用人に対して、継続的にコンプライアンスに係る研修、啓蒙等を行います。
- ② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
取締役の職務の執行に係る情報については、取締役会規程に基づき、適切な記録、保存及び管理を行います。取締役、会計監査人等は、これらの情報の記録を必要に応じて閲覧することができます。
- ③ 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - (i) リスク・コンプライアンス管理規程を定め、当社におけるリスクの把握、分析及び評価をするとともに、その結果に基づきリスクの回避、低減等の対応を適切に行います。

- (ii) 取締役会の直属機関として取締役（監査等委員を除く。）及び執行役員で構成され、監査等委員がオブザーバーとして参加権を有するリスク・コンプライアンス管理委員会にて、リスク・コンプライアンス管理規程の実施について責任を負う実施統括責任者を設置し、当社における業務執行に係るリスクの管理体制の構築及び推進を行います。
  - (iii) 実施統括責任者は、リスク・コンプライアンス管理委員会とともに、当社におけるリスクの統括管理を担当し、リスクの一元的な管理、対応及び突発的かつ重大な事態が発生した際の対策を行います。
  - (iv) リスク・コンプライアンス管理規程の各部門における実施に関する責任を負う実施責任者は、各部門における個別のリスクを把握し、分析し、及び評価するとともに、適切にリスク・コンプライアンス管理委員会及び実施統括責任者に報告します。
  - (v) 内部監査部門は、各部門のリスク管理の状況を監査し、その結果を代表取締役社長及び監査等委員会に報告します。
  - (vi) 情報セキュリティに係るリスクは当社における重要なものと位置付け、個人情報保護法、個人情報管理規程、情報セキュリティ管理規程、パソコン使用規程、プライバシーマーク制度等に従い、厳重に管理します。また、取締役及び使用人への研修、啓蒙等を行います。
  - (vii) 当社は、必要に応じて、弁護士、税理士、社会保険労務士等の外部の専門家の助言を受けられる体制を整備し、リスクの未然防止及び早期発見に努めます。
- ④ 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (i) 取締役会を原則として毎月1回開催し、取締役会規程に基づき、重要な業務執行の決定を行うとともに、取締役からその業務執行状況の報告を徴収し、必要な監督を行います。
  - (ii) 常勤取締役及び執行役員で構成される経営会議を原則として毎月2回開催し、当社における経営に関する重要事項の協議等を行います。
- ⑤ 当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項
- 監査等委員会が必要と認める場合、監査等委員会の職務を補助すべき取締役又は使用人を置きます。

- ⑥ 当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人の当社の他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項並びに監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する人事異動、人事評価等の決定に当たって、監査等委員会の承認を得ます。また、当該使用人は、監査等委員会の職務を補助する範囲においては、当該職務に優先して従事します。
- ⑦ 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人並びに当社の子会社の取締役が当社の監査等委員会に報告をするための体制
- (i) 当社の監査等委員は、取締役会及び経営会議に出席し、並びに必要な応じてリスク・コンプライアンス管理委員会に出席することにより、当社の取締役及び使用人並びに当社の子会社の取締役から重要事項の報告を受けます。なお、当社の子会社については、これを当社の一部門と位置付けて管理するため、当社の監査等委員が一元的に重要事項の報告を受けます。
- (ii) 当社の取締役及び使用人並びに当社の子会社の取締役は、当社の監査等委員会の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行います。
- (iii) 内部監査部門は、内部監査規程に基づき、内部監査の結果を当社の監査等委員会に報告します。
- ⑧ 当社の監査等委員会に報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- (i) 内部通報の窓口として管理部長及び顧問弁護士を設定し、内部通報制度規程に基づき、これらの者は当社の監査等委員会に対して内部通報に関する事項を適切に報告します。
- (ii) 当社においては、内部通報規程の定めるところにより、内部通報をした者を、当該報告をしたことを理由として、不利益に取扱うことを禁止しています。

- ⑨ 当社の監査等委員の職務の執行（監査等委員会の職務の執行に関するものに限る。）について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査等委員が、監査等委員会の職務の執行について生じる費用の前払、償還、弁済等の請求をしたときは、当該請求に係る費用又は債務が当該監査等委員の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかに処理します。
- ⑩ その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (i) 監査等委員は、代表取締役社長その他取締役との間で、定期的に意見交換を行います。
  - (ii) 監査等委員会は、内部監査部門と各事業年度の内部監査計画について協議するとともに、内部監査の結果及び指摘等について適宜意見交換を行うなど、内部監査部門との連携を図ります。
  - (iii) 監査等委員会及び内部監査部門は、会計監査人との間で情報交換等の連携を図ります。

## (2) 当該体制の運用状況

### ① 内部統制システム全般

当社における適正かつ効率的な業務運営を確保するために、法令、定款、社内規程の遵守、内部監査担当者による定期的な業務監査・内部統制監査を実施し、当社の内部統制システム全般の整備・運用を行いました。

### ② リスク管理・コンプライアンス

当社におけるリスクの把握、分析及び評価をするとともに、その結果に基づきリスクの回避、低減等の対策を行うため、「リスク・コンプライアンス規程」に基づき、取締役（監査等委員を除く）・執行役員で構成されるリスク・コンプライアンス委員会を設置しております。リスク・コンプライアンス委員会は適宜開催されており、当社の業務運営に関連するリスクを洗い出し、重要度に応じて都度対応方針を議論しております。

また、企業倫理、コンプライアンス、インサイダー取引、個人情報保護に関する研修を実施し、法令遵守の意識向上に努めております。

リスクが現実化した場合や自然災害等に備えて、緊急連絡網を整備するとともに、当社

では内部通報制度を設けており、通報された内容は、外部顧問弁護士の協力を得て十分な調査、検討を行い、適切に処理をすることとしております。

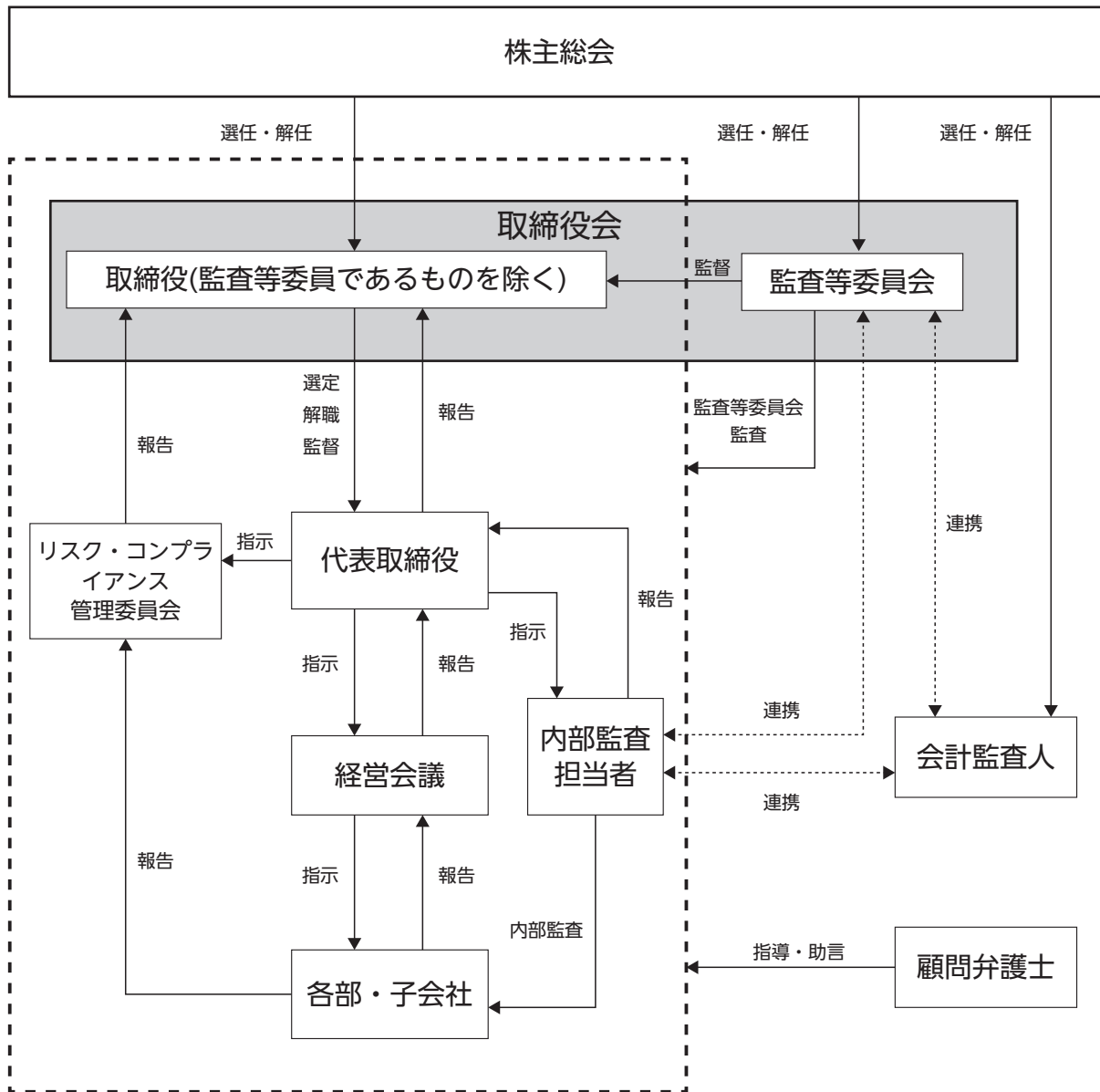
### ③ 取締役の職務執行

当社は、社内規程に基づき原則月1回取締役会を開催し、法令又は定款に定められた事項及び経営上の重要事項を決定するとともに、当社の業務執行に関する報告を受け、取締役の職務執行の監督を行いました。また、取締役会で決定した方針に基づき、効果的な職務執行が行われるよう、取締役会とは別に構成される経営会議を原則月2回開催し、経営上の重要な情報の正確かつ迅速な収集・伝達を行い、業務執行状況や事業環境の分析・将来予測、投資判断等に関わる十分な議論を行いました。

### ④ 監査等委員

当社及び子会社の取締役及び使用人は、当社の監査等委員に対して法定の報告のみならず、当社及び子会社の業績、業務状況等につき、定期的又は当社の監査等委員からの要請に応じて報告を行っております。監査等委員は、取締役会への出席及び取締役会とは別に構成される監査等委員会及びその他の重要会議への出席を通じて必要がある場合には意見を述べ、報告を受けるとともに、稟議書等の業務執行に関わる重要文書を閲覧し、取締役及び使用人に説明を求める等、より健全な経営体制と効率的な運用を図るための助言を行いました。また監査等委員は、代表取締役社長、会計監査人、内部監査担当者、各事業部門等との情報交換に努め、連携を保ちながら監査の実効性を確保しております。

(当該企業統治の体制図)



## 7. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つであると認識しております。したがって、事業の継続的な拡大と経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、業績の推移、財務状況、今後の事業投資計画等を総合的に勘案して、配当を実施していくことを基本方針といたします。

しかしながら、当社は現在成長過程にあり、当面は経営基盤の強化及び積極的な事業展開のために内部留保の充実を図り、事業拡大のための投資と財務体質の強化に充当し、企業価値を向上させることが株主に対する利益還元になるものと考えております。

当社は、設立以来配当を実施しておらず、今後においても当面の間は内部留保に努める方針です。内部留保資金につきましては、経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化及び事業の継続的な拡大発展を実現させるための資金として、有効に活用していく所存であります。

なお、剰余金の配当を行う場合、年1回の期末配当を基本方針としており、配当の決定機関は株主総会となっております。また、当社は毎年9月30日を基準日として中間配当を取締役会決議によって行うことができる旨を定款に定めております。

## 連結貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
<b>流動資産</b>	<b>2,601,475</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,836,804</b>
現金及び預金	838,739	買掛金	624,712
売掛金	478,065	短期借入金	824,998
商品	1,057,898	一年内返済予定長期借入金	72,936
貯蔵品	2,807	未払金	186,030
未収入金	126,774	未払法人税等	30,772
その他	97,190	賞与引当金	18,987
<b>固定資産</b>	<b>561,833</b>	資産除去債務	3,504
<b>有形固定資産</b>	<b>101,351</b>	その他	74,863
建物	78,853	<b>固定負債</b>	<b>287,587</b>
車両運搬具	7,362	長期借入金	218,585
工具、器具及び備品	104,685	資産除去債務	52,845
リース資産	3,428	その他	16,157
減価償却累計額	△92,978	<b>負債合計</b>	<b>2,124,392</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>350,878</b>	(純資産の部)	
のれん	350,560	<b>株主資本</b>	<b>1,010,734</b>
ソフトウェア	54	資本金	464,560
その他	262	資本剰余金	426,862
<b>投資その他の資産</b>	<b>109,603</b>	利益剰余金	122,385
繰延税金資産	32,594	自己株式	△3,074
その他	77,009	<b>非支配株主持分</b>	<b>28,182</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>1,038,916</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,163,309</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>3,163,309</b>

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## 連結損益計算書

(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		7,420,426
売上原価		5,146,395
売上総利益		2,274,031
販売費及び一般管理費		2,478,142
営業損失		△204,110
営業外収益		
受取利息	2,185	
受取賃貸料	21,721	
その他	4,047	27,955
営業外費用		
支払利息	17,816	
支払賃料	33,082	
その他	249	51,148
経常損失		△227,303
税金等調整前当期純損失		△227,303
法人税、住民税及び事業税	41,710	
法人税等調整額	△12,820	28,890
当期純損失		△256,193
非支配株主に帰属する当期純利益		13,700
親会社株主に帰属する当期純損失		△269,893

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## 連結株主資本等変動計算書

(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	460,250	417,250	392,279	△43,630	1,226,150
当期変動額					
新株の発行	4,309	4,309	—	—	8,619
親会社株主に帰属する当期純損失	—	—	△269,893	—	△269,893
自己株式の処分	—	5,302	—	40,555	45,858
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	4,309	9,611	△269,893	40,555	△215,416
当期末残高	464,560	426,862	122,385	△3,074	1,010,734
	非支配株主持分	純資産合計			
当期首残高	—	1,226,150			
当期変動額					
新株の発行	—	8,619			
親会社株主に帰属する当期純損失	—	△269,893			
自己株式の処分	—	45,858			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	28,182	28,182			
当期変動額合計	28,182	△187,233			
当期末残高	28,182	1,038,916			

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称 株式会社FLAFFY、ペットゴープロダクツ株式会社、  
株式会社DogHuggy

株式会社FLAFFY及び株式会社DogHuggyについては、株式の取得によって、当連結会計年度より連結子会社に含めております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

なお、2026年1月31日をみなし取得日として連結した株式会社DogHuggyは、決算日を1月31日から3月31日へ変更しております。この決算期変更に伴い、当連結会計年度において、2026年2月1日から2026年3月31日までの2ヶ月間を連結しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

ア 商品

主として移動平均法

イ 貯蔵品

主として移動平均法

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備に

については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	8～15年
車両運搬具	4～8年
工具、器具及び備品	2～15年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

ソフトウェア（自社利用）	5年
--------------	----

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に負担する分を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 繰延資産の処理方法

株式交付費については、支出時に全額費用として処理しております。

② のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、効果の及ぶ期間(5年～8年)に応じて均等償却しております。

③ 重要な収益及び費用の計上基準

ペットコマース事業においては、自社EC及び他社EC等にて、主にペットヘルスケア商品の販売を行っています。

自社ECではカスタマー・ロイヤルティ・プログラムとしてペットゴーポイントを付与しているため、商品の販売とポイントの付与という履行義務を識別しており、顧客との契約単位で、取引価格を独立販売価格に基づいて履行義務に配分しており、商品の販売については商品の出荷時点、ポイントの付与についてはポイントの利用時点で、それぞれ収益を認識しております。また、返品条件付きで販売している商品については、顧客は返品権を有しているため、収益を認識する際に返品されると見込まれる部分については収益を認識せずに、返金負債及び返品資産を認識することとしております。

ペットメディア事業においては、SNSやペットイベントにて、ペット用品やペットサービス等の紹介を行っております。SNSに関しては広告やSNS運用等顧客との契約内容に基

づき個別で履行義務を識別し、契約期間に応じて収益を認識しております。また、イベントに関しては顧客との契約内容に基づきイベントの開催を履行義務として識別し、イベント開催時に収益を認識しております。

(会計上の見積りに関する注記)

## 1. 株式会社FLAFFYののれんの評価

### (1) 連結計算書類に計上した金額

299,311千円

### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

株式会社FLAFFYの株式取得時に同社の超過収益力を前提としたのれんを計上しており、その効果の発現する期間を見積り、その期間で均等償却しております。のれんの減損の兆候の有無については、同社の営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなっている場合やのれんに配分された金額が相対的に多額である場合等において、減損の兆候を識別しており、のれんを含む資産グループの帳簿価額と割引前将来キャッシュ・フローを比較し、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回る場合には減損損失を認識しております。割引前将来キャッシュ・フローの見積りの根拠には、過去の経営成績の実績を勘案した一定の売上高成長率及び既存顧客の減少率等を主要な仮定として織り込んでおります。

予測不能な前提条件の変化等により、翌連結会計年度の連結計算書類において、のれんの金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 2. 繰延税金資産の回収可能性

### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

32,594千円

### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

将来減算一時差異等に対して、将来の課税所得の見積りに基づき、繰延税金資産の回収可能性を判断しております。将来の課税所得の見積りは、過去の経営成績の実績を勘案した一定の売上高成長率を主要な仮定として織り込んでおり、今後の経営環境の変化等によって影響を受ける可能性があります。実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と当座貸越契約を締結しており、当連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

当座貸越極度額の総額	2,000,000千円
借入実行残高	824,998千円
差引借入未実行残高	1,175,002千円

2. 財務制限条項

長期借入金279,992千円（1年内返済予定の額を含む当連結会計年度末の長期借入金残高）については、財務制限条項が付されており、次の条項に該当した場合には当該借入金の期限の利益を喪失する可能性があります。なお、当連結会計年度末において、財務制限条項に抵触している事実はありません。

- ・2025年3月期を初回とし、以降各事業年度の決算期末日における連結貸借対照表の純資産の部の金額を直前の事業年度の決算期末日における連結貸借対照表の純資産の部の金額の75%以上とすること
- ・2025年3月期を初回とし、連結損益計算書の経常損益が2期連続として損失とならないようにすること

3. 流動負債のその他のうち、契約負債の残高 28,344千円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数

普通株式	1,889,200株
------	------------

2. 当連結会計年度の末日の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く）の目的となる株式の種類及び数

普通株式	289,600株
------	----------

(金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資等に必要な資金を主として銀行借入により調達しております。また、一時的な余剰資金は預金で管理しております。なお、デリバティブ取引は行わない方針であります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。買掛金、未払金及び未払法人税等は、数ヶ月で決済されるものであります。短期借入金は、運転資金に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で1年であります。長期借入金は、株式取得に係る資金調達や事業資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で5年であります。また、支払期日にその支払を実行できなくなる流動性リスクを内包しております。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

#### ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

売掛金については、債権管理規程に従い、取引先ごとに期日管理及び残高管理を行い、リスク低減を図っております。

#### ② 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき、管理部が適時に資金繰り計画を更新し、手元流動性の維持を管理しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。また、現金は注記を省略しており、預金、売掛金、未収入金、買掛金、短期借入金、未払金及び未払法人税等は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 長期借入金 (※)	291,521	287,508	△4,012
負債計	291,521	287,508	△4,012

(※) 1年以内に返済すると予定されている額を含めております。

(注) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

(単位：千円)

区分	1年内	1年超 2年内	2年超 3年内	3年超 4年内	4年超 5年内
長期借入金	72,936	72,936	72,936	72,347	366
合計	72,936	72,936	72,936	72,347	366

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	—	287,508	—	287,508
負債計	—	287,508	—	287,508

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

販売経路別の収益の分解と主たる商品及びサービスとの関連は次のとおりであります。

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ペットコマース事業	ペットメディア事業	計		
販売経路					
自社EC	2,197,733	—	2,197,733	—	2,197,733
他社EC等	4,928,839	—	4,928,839	—	4,928,839
その他	—	291,491	291,491	2,363	293,854
顧客との契約から生じる収益	7,126,572	291,491	7,418,063	2,363	7,420,426
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	7,126,572	291,491	7,418,063	2,363	7,420,426

2. 収益を理解するための基礎となる情報

連結注記表の「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 4. (4)

③重要な収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

返品資産、返金負債及び契約負債の期首残高及び期末残高等

当連結会計年度における顧客との契約から計上された返品資産、返金負債及び契約負債の期首及び期末残高は以下のとおりとなります。

また、連結貸借対照表上、返品資産は流動資産の「その他」に、返金負債及び契約負債は流動負債の「その他」に含めて表示しております。

(単位：千円)

	2026年3月31日	
	期首残高	期末残高
返品資産	3,741	3,802
返金負債	5,244	5,142
契約負債	32,820	28,344

なお、当連結会計年度に認識した収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、32,820千円となります。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

賞与引当金	5,984千円
資産除去債務	17,761 //
商品評価損	5,781 //
未払事業税	2,952 //
譲渡制限付株式報酬	5,137 //
フリーレント	6,451 //
繰越欠損金	80,073 //
その他	2,715 //
繰延税金資産小計	126,858千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△79,602 //
評価性引当額小計	△79,602 //
繰延税金資産合計	47,255千円

繰延税金負債

資産除去債務に対応する除去費用	△11,840千円
その他	△2,820 //
繰延税金負債合計	△14,661 //
繰延税金資産純額	32,594千円

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり当期純損失	143円63銭
2. 1株当たり純資産	536円08銭

# 貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
<b>流動資産</b>	<b>2,363,357</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,764,591</b>
現金及び預金	666,005	買掛金	614,787
売掛金	415,682	短期借入金	854,998
商品	1,057,433	一年内返済予定長期借入金	70,008
貯蔵品	2,807	未払金	146,855
未収入金	126,774	未払費用	17,963
前払費用	18,184	預り金	4,000
その他	76,468	賞与引当金	18,987
<b>固定資産</b>	<b>641,274</b>	資産除去債務	3,504
<b>有形固定資産</b>	<b>96,340</b>	その他	33,486
建物	78,853	<b>固定負債</b>	<b>278,986</b>
車両運搬具	5,728	長期借入金	209,984
工具、器具及び備品	98,779	資産除去債務	52,845
リース資産	3,428	その他	16,157
減価償却累計額	△90,449	<b>負債合計</b>	<b>2,043,578</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>79</b>	(純資産の部)	
ソフトウェア	54	<b>株主資本</b>	<b>961,053</b>
その他	24	資本金	464,560
<b>投資その他の資産</b>	<b>544,854</b>	資本剰余金	426,862
関係会社株式	439,075	資本準備金	421,560
長期前払費用	6	その他資本剰余金	5,302
繰延税金資産	29,848	利益剰余金	72,704
その他	75,923	その他利益剰余金	72,704
		繰越利益剰余金	72,704
		自己株式	△3,074
		<b>純資産合計</b>	<b>961,053</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,004,631</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>3,004,631</b>

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## 損益計算書

(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		6,991,210
売上原価		4,920,520
売上総利益		2,070,690
販売費及び一般管理費		2,331,946
営業損失		△261,255
営業外収益		
受取利息	1,877	
受取賃貸料	21,721	
その他	1,313	24,913
営業外費用		
支払利息	18,048	
支払賃料	33,082	
その他	49	51,180
経常損失		△287,523
税引前当期純損失		△287,523
法人税、住民税及び事業税	580	
法人税等調整額	△8,289	△7,709
当期純損失		△279,813

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## 株主資本等変動計算書

(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	460,250	417,250	—	417,250
当期変動額				
新株の発行	4,309	4,309	—	4,309
当期純損失	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	5,302	5,302
当期変動額合計	4,309	4,309	5,302	9,611
当期末残高	464,560	421,560	5,302	426,862

	株主資本				純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
	繰越利益剰余金				
当期首残高	352,518	352,518	△43,630	1,186,389	1,186,389
当期変動額					
新株の発行	—	—	—	8,619	8,619
当期純損失	△279,813	△279,813	—	△279,813	△279,813
自己株式の処分	—	—	40,555	45,858	45,858
当期変動額合計	△279,813	△279,813	40,555	△225,336	△225,336
当期末残高	72,704	72,704	△3,074	961,053	961,053

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 商品

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

#### (2) 貯蔵品

移動平均法による原価法を採用しております。

### 3. 固定資産の減価償却方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 8～15年

車両運搬具 4～8年

工具、器具及び備品 2～15年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

#### 4. 重要な繰延資産の処理方法

##### 株式交付費

支出時に全額費用として処理しております。

#### 5. 引当金の計上基準

##### 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当事業年度に負担する分を計上しております。

#### 6. 収益及び費用の計上基準

ペットコマース事業においては、自社EC及び他社EC等にて、主にペットヘルスケア商品の販売を行っています。

自社ECではカスタマー・ロイヤルティ・プログラムとしてペットゴーポイントを付与しているため、商品の販売とポイントの付与という履行義務を識別しており、顧客との契約単位で、取引価格を独立販売価格に基づいて履行義務に配分しており、商品の販売については商品の出荷時点、ポイントの付与についてはポイントの利用時点で、それぞれ収益を認識しております。また、返品条件付きで販売している商品については、顧客は返品権を有しているため、収益を認識する際に返品されると見込まれる部分については収益を認識せずに、返金負債及び返品資産を認識することとしております。

(会計上の見積りに関する注記)

#### 1. 関係会社株式の評価

##### (1) 計算書類に計上した金額

439,075千円

##### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

関係会社株式は、取得時点において価値算定の対象となった事業計画に基づき算定しております。関係会社株式は、市場価格のない株式であり、取得原価をもって貸借対照表価額としております。

1株当たりの純資産額に基づく実質価額が取得価額に比べ著しく低下した時には、回復可能性が十分な根拠により裏付けられている場合を除き、相当の減損処理を行うこととしております。また、関係会社の超過収益力等を反映して、財務諸表から得られる1株当たり純資

産額に比べて高い価額で関係会社の株式を取得している場合において、超過収益力等の減少により実質価額が取得原価に比べ著しく低下した時には、相当の減損処理を行うこととしております。実質価額に含まれる超過収益力は取得時の事業計画に基づき算出しております。当該事業計画の主要な仮定は、利用可能な情報により設定した一定の売上高成長率等であります。

上記の仮定は経営者による最善の見積りにより決定しておりますが、市場環境の変化等により影響を受ける可能性があり、不確実性が伴っております。そのため、実績が事業計画から著しく下方に乖離するなどして、実質価額が著しく下落した場合には、翌事業年度の計算書類において、関係会社株式の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 2. 繰延税金資産の回収可能性

### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

29,848千円

### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

将来減算一時差異等に対して、将来の課税所得の見積りに基づき、繰延税金資産の回収可能性を判断しております。将来の課税所得の見積りは、過去の経営成績の実績を勘案した一定の売上高成長率を主要な仮定として織り込んでおり、今後の経営環境の変化等によって影響を受ける可能性があります。実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と当座貸越契約を締結しており、当事業年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

当座貸越極度額の総額	2,000,000千円
借入実行残高	824,998千円
差引借入未実行残高	1,175,002千円

2. 財務制限条項

長期借入金279,992千円(1年内返済予定の額を含む当事業年度末の長期借入金残高)については、財務制限条項が付されており、次の条項に該当した場合には当該借入金の期限の利益を喪失する可能性があります。なお、当事業年度末において、財務制限条項に抵触している事実はありません。

- ・2025年3月期を初回とし、以降各事業年度の決算期末日における貸借対照表の純資産の部の金額を直前の事業年度の決算期末日における貸借対照表の純資産の部の金額の75%以上とすること
- ・2025年3月期を初回とし、損益計算書の経常損益が2期連続として損失とならないようにすること

3. 関係会社に対する金銭債権債務

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務の金額は、次のとおりであります。

関係会社に対する短期金銭債権	2,200千円
関係会社に対する短期金銭債務	31,580千円

4. 流動負債のその他のうち、契約負債の残高 28,344千円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の金額は、次のとおりであります。

営業取引(収入分)	49,545千円
営業取引(支出分)	17,182千円
営業取引以外の取引高(支出分)	260千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度の末日における自己株式の種類及び株数

普通株式 3,783株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

賞与引当金 5,984千円

資産除去債務 17,761 //

商品評価損 5,781 //

未払事業税 246 //

譲渡制限付株式報酬 5,137 //

フリーレント 6,451 //

繰越欠損金 80,073 //

その他 2,624 //

繰延税金資産小計 124,062千円

将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額  $\triangle 79,552 //$

評価性引当額小計  $\triangle 79,552 //$

繰延税金資産合計 44,509千円

繰延税金負債

資産除去債務に対応する除去費用  $\triangle 11,840$ 千円

その他  $\triangle 2,820 //$

繰延税金負債合計  $\triangle 14,661 //$

繰延税金資産純額 29,848千円

(関連当事者との取引に関する注記)

個人

種類	氏名	職業	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
個人	廣田智沙	会社役員	被所有 直接2.6%	子会社取締役	子会社株式の 取得	400,000	—	—
個人	長塚翔吾	会社役員	—	子会社取締役	子会社株式の 取得	30,000	—	—

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

子会社株式の取得については、当社の連結子会社である株式会社FLAFFY及び株式会社DogHuggyの株式を取得したものであり、第三者機関により算定された価格を勘案して決定しております。

(収益認識に関する注記)

収益を理解するための基礎となる情報

連結注記表と同一であります。

(1株当たり情報に関する注記)

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり当期純損失 | 148円91銭 |
| 2. 1株当たり純資産   | 509円73銭 |

## 独立監査人の監査報告書

2026年5月15日

ペットゴー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 沼田 敦 士

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 元

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ペットゴー株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ペットゴー株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 独立監査人の監査報告書

2026年5月15日

ペットゴー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 沼田 敦 士

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 元

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ペットゴー株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第22期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2025年4月1日から2026年3月31日までの第22期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ①監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査担当者と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ②会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2026年5月18日

ペットゴー株式会社 監査等委員会

常勤監査等委員 百 田 功

監査等委員 藤 池 智 則

監査等委員 伊 藤 章 子

(注) 監査等委員3名は、全員、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

## 株主総会会場ご案内図

[住所]

東京都中野区本町一丁目32番2号 ハーモニースクエア3階  
「ハーモニーホール」

[交通／周辺地図]

東京メトロ丸ノ内線「中野坂上」駅「1番出口」、「2番出口」徒歩3分  
都営大江戸線「中野坂上」駅「A1出口」徒歩3分



◎お願い

駐車場、駐輪場の準備はいたしておりませんので、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。